

業務実績報告書

提出日 2020年1月22日

1. 職名・氏名 准教授 境 宏恵

2. 学位 学位 博士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 2002.1

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経営財務論（4単位 毎年開講） 2・3・4年生 （2019年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 事業を行う上で必要な資金の管理、投資プロジェクトや企業価値の評価方法、企業が長期資本を調達するための方法や配当政策、経営戦略と財務とのかかわりなどについて講義する。財務的意思決定が行われる仕組みに関する理論について基礎的な理解を深めるとともに、実際の企業の行動や財務政策の背景や影響について考えさせる。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 要点理解や全体像把握のために役立つようにレジュメを改善した。また、設例として具体的な数値をもとに考えさせたり、実際の企業での事例などを挿入したりすることで、少しでも理解を深められるように努力した。また、ビデオ教材等も取り入れて、少しでも学生の興味関心が高まるように工夫した。 課題として Excel を利用して実際に計算をする機会を設けることで、自分で時間をかけて考えて理解を深める機会を増やすように工夫した。さらに、課題で実際の企業のデータを利用して作業をする課題を増やし、現実経済と理論との関係を意識させるように努力した。ただし、近年は表計算ソフトに不慣れな学生が増えており、最低限のソフト操作についても補助的に指導した。 昨年度はコンピュータ教室を手配して、実際に学生に作業してもらう時間を作ったところ比較的好評のようであったので、今年度も予定している。また、課題にコメントを付けて返すなど、双方向性を意識した取り組みを行った。 また、昨年度に引き続き福井県信用保証協会と連携し、同協会で勤務する本学の卒業生をゲストスピーカーとしてお招きし、信用保証協会の役割や創業を考える上で必要なプロセス、活用できる制度等について学ぶ特別講義を開講した（2019年11月15日）。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経営分析論（2単位 毎年開講） 3・4年生 （2019年度）</p>
<p>② 内容・ねらい 企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 要点理解や全体像把握のために役立つようにレジュメを改善した。また、設例として具体的な数値をもとに考えさせたり、実際の企業での事例などを挿入したりすることで、少しでも理解を深められるように努力した。また、ビデオ教材等も取り入れて、少しでも学生の興味関心が高まるように工夫した。 レポートで実際の企業データをもとに各種比率の算定や全体的な評価を行うという課題を課した。講義中に質問を受け付けてその場でアドバイスしたり、メールでの質問も推奨したりするなど、できるだけ個別の質問を解決できるような環境作りに努めた。また、練習問題のプリントを増やし、受講生自身が試験前の自学自習および理解のチェックができるように工夫した。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p>

<p>外書講読Ⅰ（2単位 毎年開講） 2・3・4年生 （2019年度）</p> <p>② 内容・ねらい 易しい英文で幅広いテーマを扱うことで、2年生が今後自らの専門分野を決定する上で役立つようにということを意識した。また、扱う英文が時事問題をテーマとしていたこともあり、英文の理解はもちろんであるが、背景にある考え方や事実の流れ等を補足解説して内容理解を深めることも意識して授業を行った。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 英文理解のチェックは、事前提出という形をとることで受講生の中でミスが多かったところを事前に把握し、解説に生かすように努力した。また、経済・経営的な内容や背景をより深く理解できるように、資料等を用いて補足説明を十分に行い、英文の理解だけにとどまらないように工夫をした。とくに、新聞記事等を活用し、経済に関する時事ニュースを理解するための予備知識を深めることに努力した。 外書も少人数制講義の一環という点では、出席や単位取得の状況に不安のある学生に対する授業外のフォローに努めた。また、年度末には学生が各自のテーマにしたがって発表をする機会を持たせるなど、できるだけ自主的に学ぶという機会につながるように意識した。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅰ（4単位 毎年開講） 3年生 （2019年度）</p> <p>② 内容・ねらい 企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。さらに、実際にレポートを作成する作業を通じて、企業に対する理解と関心を高める。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 前期はまず輪読を通して財務諸表自体に対する理解を深めることを目指した。また、後期は実際の企業や業界の財務諸表や各種資料をもとに経営分析を行ってレポート執筆を進めている。今年度の3年生は、前期は新聞業界を題材に資料検索やデータ収集等の練習をし、後期はテレビ局の経営分析や百円ショップの経営分析というテーマでゼミレポートを作成している。これらを通じて、実際の企業への関心や、実際の企業が作成する財務諸表とそれが果たす役割についての関心が高まった。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ（4単位 毎年開講） 4年生 （2019年度）</p> <p>② 内容・ねらい 企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。さらに、実際にレポートを作成する作業を通じて、企業に対する理解と関心を高める。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 演習Ⅱは年間を通して卒論およびゼミ論の指導が中心となった。これらの年間活動の成果として、4年生は3名が卒論を提出し、残る2名もゼミ論を提出予定である。これらを通じて、実際の企業への関心や、実際の企業が作成する財務諸表とそれが果たす役割についての関心が高まった。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経営財務論（4単位 毎年開講） 2・3・4年生 （2018年度）</p> <p>② 内容・ねらい 事業を行う上で必要な資金の管理、投資プロジェクトや企業価値の評価方法、企業が長期資本を調達するための方法や配当政策、経営戦略と財務とのかかわりなどについて講義する。財務的意思決定が行われる仕組みに関する理論について基礎的な理解を深めるとともに、実際の</p>

企業の行動や財務政策の背景や影響について考えさせる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

要点理解や全体像把握のために役立つようにレジュメを改善した。また、設例として具体的な数値をもとに考えさせたり、実際の企業での事例などを挿入したりすることで、少しでも理解を深められるように努力した。また、ビデオ教材等も取り入れて、少しでも学生の興味関心が高まるように工夫した。

課題として Excel を利用して実際に計算をする機会を設けることで、自分で時間をかけて考えて理解を深める機会を増やすように工夫した。さらに、課題で実際の企業のデータを利用して作業をする課題を増やし、現実経済と理論との関係を意識させるように努力した。ただし、近年は表計算ソフトに不慣れな学生が増えており、最低限のソフト操作についても補助的に指導した。

今年度は複数回にわたりコンピュータ教室を手配して、実際に学生に作業してもらう時間を作ったところ、比較的好評のようであった。また、課題にコメントを付けて返すなど、双方向性を意識した取り組みを行った。

また、福井県信用保証協会と連携し、同協会で勤務する本学の卒業生をゲストスピーカーとしてお招きし、信用保証協会の役割や創業を考える上で必要なプロセス、活用できる制度等について学ぶ特別講義を開講した（2018年12月7日）。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
経営分析論（2単位 毎年開講） 3・4年生 （2018年度）

② 内容・ねらい

企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

要点理解や全体像把握のために役立つようにレジュメを改善した。また、設例として具体的な数値をもとに考えさせたり、実際の企業での事例などを挿入したりすることで、少しでも理解を深められるように努力した。また、ビデオ教材等も取り入れて、少しでも学生の興味関心が高まるように工夫した。

レポートで実際の企業データをもとに各種比率の算定や全体的な評価を行うという課題を課した。講義中に質問を受け付けてその場でアドバイスしたり、メールでの質問も推奨したりするなど、できるだけ個別の質問を解決できるような環境作りに努めた。また、練習問題のプリントを増やし、受講生自身が試験前の自学自習および理解のチェックができるように工夫した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
外書講読 I（2単位 毎年開講） 2・3・4年生 （2018年度）

② 内容・ねらい

易しい英文で幅広いテーマを扱うことで、2年生が今後自らの専門分野を決定する上で役立つようにということ意識した。また、扱う英文が時事問題をテーマとしていたこともあり、英文の理解ももちろんであるが、背景にある考え方や事実の流れ等を補足解説して内容理解を深めることも意識して授業を行った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

英文理解のチェックは、事前提出という形をとることで受講生の中でミスが多かったところを事前に把握し、解説に生かすように努力した。また、経済・経営的な内容や背景をより深く理解できるように、資料等を用いて補足説明を十分に行い、英文の理解だけにとどまらないように工夫をした。とくに、新聞記事等を活用し、経済に関する時事ニュースを理解するための予備知識を深めることに努力した。

外書も少人数制講義の一環という点では、出席や単位取得の状況に不安のある学生に対する授業外のフォローに努めた。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

<p>② 内容・ねらい</p> <p>企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。さらに、実際にレポートを作成する作業を通じて、企業に対する理解と関心を高める。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>前期はまず輪読を通して財務諸表自体に対する理解を深めることを目指した。また、後期は実際の企業や業界の財務諸表や各種資料をもとに経営分析を行ってレポート執筆を進めている。今年度の3年生は、前期は新聞業界を題材に資料検索やデータ収集等の練習をし、後期は家電量販店の経営分析をいうテーマでゼミレポートを作成している。これらを通じて、実際の企業への関心や、実際の企業が作成する財務諸表とそれが果たす役割についての関心が高まった。</p> <p>また、福井新聞社との合同企画 X-tra の一環として、福井新聞社よりゲストスピーカーをお招きして「新聞の読み方講座」を開催した（2018年4月28日4限）。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <p>演習Ⅱ（4単位 毎年開講） 4年生 （2018年度）</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。さらに、実際にレポートを作成する作業を通じて、企業に対する理解と関心を高める。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>演習Ⅱは年間を通して卒論およびゼミ論の指導が中心となった。これらの年間活動の成果として、4年生は3名が卒論を提出し、残る5名もゼミ論を提出予定である。これらを通じて、実際の企業への関心や、実際の企業が作成する財務諸表とそれが果たす役割についての関心が高まった。</p> <p>また、福井新聞社との合同企画 X-tra の一環として、福井新聞社よりゲストスピーカーをお招きして「新聞の読み方講座」を開催した（2018年4月28日4限）。また、その後ゲストスピーカーと意見交換を行い（同日5限）、後日福井新聞にその模様が掲載された。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <p>経営財務戦略論（2単位 隔年開講） 大学院1・2年生 （2018年度）</p>
<p>② 内容・ねらい</p> <p>企業の存続や成長にとって企業価値創造は重要な課題であり、企業において財務的な意思決定を行う財務管理者の役割はますます高まっている。本講義では、財務的意思決定が行われる仕組みに関する理論について基礎的な理解を深めるとともに、実際の企業の行動や財務政策の背景や影響について考える。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫</p> <p>今年度初めての担当科目であったが、シラバスで予定していた内容をほぼ終えることができた。受講生が少数で、かつ職業柄専門的な知識を持っていたので、仕事との関わりや実務を考える上での理論的背景ということ意識して授業を行った。しかし、受講生の人数や予備知識、興味関心など、当初予定していたものとは異なる点もあったので、次回開講時に向けて修正の必要性を感じた。これまで他の大学院科目を担当していた時には受講生は税理士試験受験希望者ばかりであったが、この講義はそれ以外の社会人院生が半数を占めており、今後はこれまでに以上に実務を意識したテーマ選定が必要かもしれない。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等</p> <p>経営財務論（4単位 毎年開講） 2・3・4年生 （2017年度）</p>

② 内容・ねらい

事業を行う上で必要な資金の管理、投資プロジェクトや企業価値の評価方法、企業が長期資本を調達するための方法や配当政策、経営戦略と財務とのかかわりなどについて講義する。財務的意思決定が行われる仕組みに関する理論について基礎的な理解を深めるとともに、実際の企業の行動や財務政策の背景や影響について考えさせる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

要点理解や全体像把握のために役立つようにレジュメを改善した。また、設例として具体的な数値をもとに考えさせたり、実際の企業での事例などを挿入したりすることで、少しでも理解を深められるように努力した。

課題として Excel を利用して実際に計算をする機会を設けることで、自分で時間をかけて考えて理解を深める機会を増やすように工夫した。さらに、課題で実際の企業のデータを利用して作業をする課題を増やし、現実経済と理論との関係を意識させるように努力した。ただし、近年は表計算ソフトに不慣れな学生が増えており、最低限のソフト操作についても補助的に指導した。

今年度はビデオ教材等も取り入れて、少しでも学生の興味関心が高まるように工夫した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
経営分析論（2単位 毎年開講） 3・4年生 （2017年度）

② 内容・ねらい

企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

レポートで実際の企業データをもとに各種比率の算定や全体的な評価を行うという課題を課した。講義中に質問を受け付けてその場でアドバイスしたり、メールでの質問も推奨したりするなど、できるだけ個別の質問を解決できるような環境作りに努めた。また、練習問題のプリントを増やし、受講生自身が試験前の自学自習および理解のチェックができるように工夫した。

とくに今年度は、学外よりゲストスピーカーをお招きして講演をいただいたこともあり、今講義で学んでいることがどのように社会で使われるかという点で学生の興味関心が高まったと思われる。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
外書講読Ⅰ（2単位 毎年開講） 2・3・4年生 （2017年度）

② 内容・ねらい

易しい英文で幅広いテーマを扱うことで、2年生が今後自らの専門分野を決定する上で役立つようにということを意識した。また、扱う英文が時事問題をテーマとしていたこともあり、英文の理解ももちろんであるが、背景にある考え方や事実の流れ等を補足解説して内容理解を深めることも意識して授業を行った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

英文理解のチェックは、事前提出という形をとることで受講生の中でミスが多かったところを事前に把握し、解説に生かすように努力した。また、経済・経営的な内容や背景をより深く理解できるように、資料等を用いて補足説明を十分に行い、英文の理解だけにとどまらないように工夫をした。とくに、新聞記事等を活用し、経済に関する時事ニュースを理解するための予備知識を深めることに努力した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅰ（4単位 毎年開講） 3年生 （2017年度）

② 内容・ねらい

企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。さらに、実際に

レポートを作成する作業を通じて、企業に対する理解と関心を高める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 前期はまず輪読を通して財務諸表自体に対する理解を深めることを目指した。また、後期は実際の企業や業界の財務諸表や各種資料をもとに経営分析を行ってレポート執筆を進めている。また、夏期休業中に嶺南の企業数社に見学に行ったり、卒論やゼミ論の中間発表会を行ったりすることを目的としてゼミ合宿を実施した。現在はグループ単位でゼミレポートを作成している。これらを通じて、実際の企業への関心や、実際の企業が作成する財務諸表とそれが果たす役割についての関心が高まった。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 演習Ⅱ (4 単位 毎年開講) 4 年生 (2017 年度)
② 内容・ねらい 企業が作成・公表する財務諸表を利用してさまざまな分析指標を算出できるようになること、また、その意味や評価基準についての理解を深めることを目標とする。データや資料の入手のしかたなども含め、実際に分析を行う際に役立つスキルを得ることを目指す。さらに、実際にレポートを作成する作業を通じて、企業に対する理解と関心を高める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 全員が卒業論文を執筆したので、演習Ⅱは年間を通して卒論の指導が中心となった。また、夏期休業中に嶺南の企業数社に見学に行ったり、卒論やゼミ論の中間発表会を行ったりすることを目的としてゼミ合宿を実施した。これらの年間活動の成果として、4 年生は 6 名が卒論を提出し、残る 5 名もゼミ論を提出した。これらを通じて、実際の企業への関心や、実際の企業が作成する財務諸表とそれが果たす役割についての関心が高まった。
(2)非常勤講師担当科目
① 担当科目名 (単位数) 開講学校名 なし
②内容・ねらい
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
④本学における業務との関連性
(3)その他の教育活動
なし

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文 なし
② 著書 「中小企業向け IFRS に対するオーストラリアの選択」(ロニータ・ラム, シドニー・J・グレイによる著書の翻訳) 小津稚加子編著『IFRS 適用のエフェクト研究』中央経済社、2017 年所収。
③ 学会報告等 なし
④ その他の公表実績 なし
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など
学会・分科会の開催運営 日本会計教育学会 (2017 年 10 月 7・8 日アオッサにて開催) の準備委員会委員

(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井県県民会議委員（2019年10月より）：福井県の事務事業見直しのための審議 鯖江市公共施設使用料改定検討委員会副委員長（2018年7月～2018年12月）：鯖江市の公共施設使用料金の改定・減免に関する審議 福井県公共事業再評価委員会委員（2016年10月より継続）：県が事業主体となって実施する公共事業の評価に関する審議 福井市特別職職員等倫理委員会委員（2014年1月より継続）：特別職職員等の違反行為の関係者等に対する事実関係の調査・審議 福井市退職手当審査会委員（2014年1月より継続）：退職手当の支給制限等の処分についての調査・審議 福井市長政治倫理審査会委員（2013年8月より継続）：市長の政治倫理にかかわる事項についての調査・審議
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③ （公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④ （兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥ その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 2019年11月16日 会計入門講座 2019年度 後期<第1回>「これから社会に出る人のための経営分析入門」(永平寺キャンパス) 2018年10月27日 会計入門講座 2018年度 後期<第1回>「これから社会に出る人のための経営分析入門」(小浜キャンパス) 2017年11月11日 会計入門講座 2017年度 後期<第1回>「やさしい経営分析入門」(永平寺キャンパス)
② 社会人・高校生向けの講座 2019年6月19日 福井商業高校による福井県立大学訪問時の模擬授業 2018年10月27日 大野高校「学問発見講座」における講義 2017年6月21日 福井商業高校による福井県立大学訪問時の模擬授業
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）
なし

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
なし
(2)委員会・チーム活動
新入生オリエンテーション委員（2018年後期より継続） 入試本部委員（2018年度より継続）

ハラスメント委員会委員（2016年度より継続） 相談担当教員（経営学科1年生担当）（2018年度） 図書館連絡委員（2017年度）

(3)学内行事への参加

新生生オリエンテーション（2016年度より継続）

(4)その他、自発的活動など

なし
